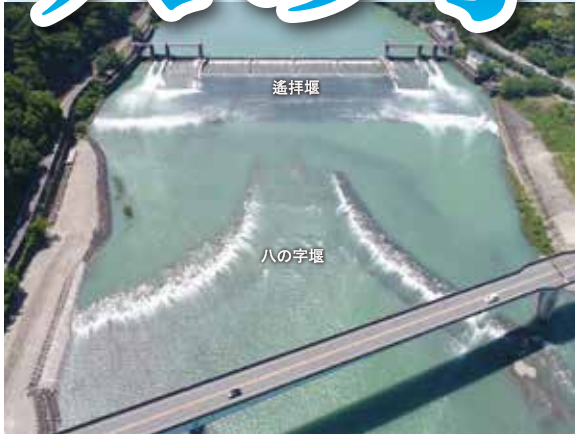


いよいよ、この春に 八の字堰が完成



問合せ 国土交通省八代河川国道事務所河川環境課 ☎32-7134
企画政策課 ☎33-4104



寛政5年(1793年)旧熊本藩主細川家所蔵の領内名勝図巻に描かれた旧遙拝堰(八の字堰)



球磨川の下流部には、以前はアユをはじめとする水生生物の良好な生息場である「瀬」などが多く存在していましたが、年々瀬が減少するとともにアユなどの生物が減少傾向にあることが確認されています。

こうした状況を踏まえ、国土交通省八代河川国道事務所では、平成27年度から遙拝堰の下流において、河床の安定と瀬を再生するための落差工（河川に横断して設けられる施設）の設置を進め、今年の春に完成の予定です。

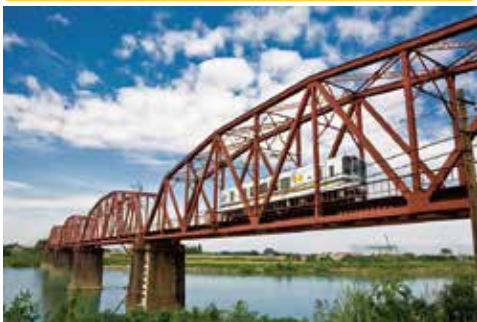
この落差工の設置にあたっては、約400年前に「土木の神様」と呼ばれた加藤清正により築造された旧遙拝堰（その形状から「八字堰」とも呼ばれていた）の形状を再現し、当時の八字堰にちなんで「八の字堰」と名付けられました。

この新たな「八の字堰」は、旧遙拝堰（八字堰）の絵図や形状にもっとも近いと考えられる昭和8年の測量図、また、加藤清正に由来する堰の構造や材料に関する資料・文献を参考に、現場の工事では、熊本の石工の技術により巨石を石組み構造で配置し、石組み本体の崩壊を守るように上下流面には敷石として環境に配慮した根固ブロックを施すなど、八字堰の復元とも言える取り組みとなっています。

1月現在、工事中ですが遙拝堰下流では、アユが付着した藻類を食べた跡である「食み跡」や球磨川堰でのアユの掬い上げ量も増加しており、八の字堰による良好な瀬の再生により、多様な流れを持つ河川環境の形成に繋がっているものと考えられます。

球磨川に現れた「八」の字は「瀬」の再生だけではなく、八代の新たな観光スポットとして、水遊びやカヌーなど市民の皆さんが楽しめる河川空間となることを目指しています。

おすすめスポット



肥薩おれんじ鉄道の球磨川鉄橋から「八」の字を見ることができます。
この機会に、肥薩おれんじ鉄道にも乗車してみませんか。

河川空間のイメージ図

